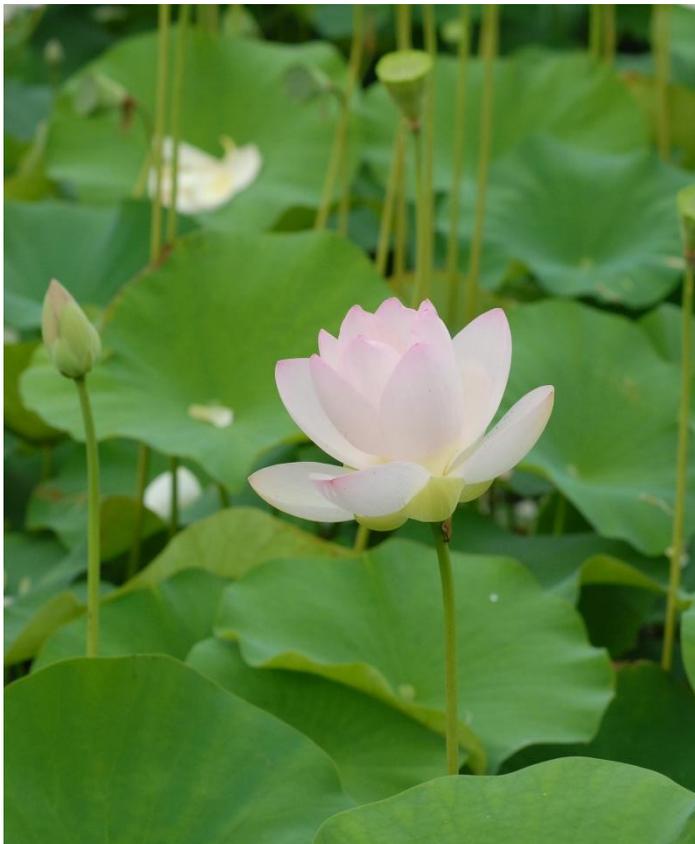


あいさい通信

発行：あいさいボランティアガイドの会 編集：若山
愛西市森川町井桁西27 愛西市観光協会内
電話：0567-55-9993

高貴な花 舞妃蓮



今年も蓮の花の季節、「蓮見の会」が7月9日(土)・10日(日)に愛西市森川町の森川花はす田で開催されます。今年の森川花はす田には、新しい品種「舞妃蓮」が仲間入りしています。

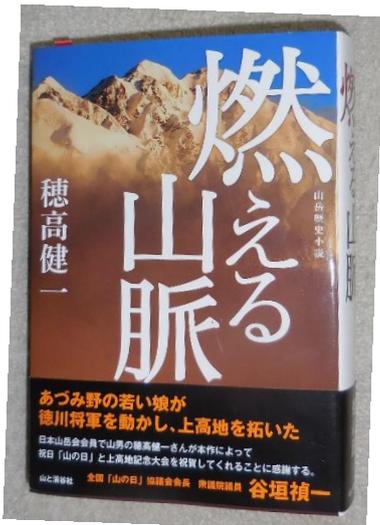
舞妃蓮は、1966(昭和41)年に和歌山県御坊市の阪本祐二氏が、日本の古代蓮「大賀蓮」とアメリカ合衆国の黄花の蓮「王子蓮」とを交配して作り出した蓮です。大賀蓮は、1951年(昭和26年)、千葉県千葉市検見川(現・千葉市花見川区朝日ヶ丘町)にある東京大学検見川厚生農場(現・東京大学検見川総合運動場)にあった弥生時代(今から2000年以上前)の遺跡(落合遺跡)で発掘された蓮の実から発芽・開花した蓮(古代蓮)であり、開花に成功した植物学者・大賀一郎博士の姓から名付けられました。一方、王子蓮は米国ミシシッピ川流域に野生している蓮であり、黄色味の強い花色で、花の直

径も30cm前後と大型な品種で、現在の天皇陛下が皇太子であられた頃、アメリカ合衆国から蓮の実を持ち帰られた由来により王子蓮と名付けられました。

阪本祐二氏は大賀博士の愛弟子で、和歌山県日高高校に奉職する傍ら蓮研究に専心され、昭和43年の春、舞妃蓮の蓮根を皇太子ご夫妻(現在の天皇皇后両陛下)に献上され、その年の夏に東宮御所で開花しました。花卉が淡い黄色に紅を帯びています。そして、昭和44年、花の開閉があたかも女性が舞い姿のようであると、優美で艶やかな花を美智子妃殿下に重ね合わせ、阪本氏がこの新しい品種に東洋的な名前『舞妃蓮』と名付けられたようです。

このたび、御坊市の御好意により、花蓮の名所である愛西市に「舞妃蓮」をいただきました。6月20日現在、赤い蕾が出てきており、まもなく、優美で艶やかな高貴な蓮が開花します。

燃える山脈



今年の8月11日は新しい国民の祝日「山の日」です。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」日らしいのですが、何かの山の記念日というわけではなく、初めての8月の祝日として政治的に制定された日のようです。

山が無い愛西市には無縁な日かと思っていましたが、この日の制定を記念して6月3日に『燃える山脈』という小説が発表されました。

この小説の著者・穂高健一氏は、昨年5月愛西市に、愛西市出身の「津田正生(まさなり)」について調査に来られました。この小説は、江戸時代末期、信濃国(現在の長野県松本市安曇野)の農民が松本から北アルプスを越えて上高地を經由して飛騨高山へ至る飛州街道を開拓したという話で、特に上高地の歴史に関する物語で、燃える山脈

とは、上高地から見上げる夕陽に輝く穂高連峰を指しています。舞台となる江戸時代に描かれた古図には、上高地に湯屋と記されています。そして、この頃、北アルプスの槍ヶ岳(日本第5位の高峰、標高3,180m)が幡隆上人によって開山(1828(文政11)年)されます。そして、その直後(1833年)に、津田正生も槍ヶ岳に登頂しています。小説『燃える山脈』では、津田正生の槍ヶ岳登山の様子が登場し、津島神社など故郷についても紹介しています。

愛西市観光協会・ボランティアガイドの会

総会 開催



5月26日(木)午前10時より、愛西市文化会館に於いて、愛西市観光協会の平成28年度通常総会が開催されました。

加藤会長の挨拶に続き、議事として平成27年度事業報告と収支決算報告、28年度事業計画と収支予算案、規約の一部改正案が提出され、満場一致で承認されました。その後、来賓の日永愛西市長、横井愛知県議会議員、大島愛西市議会議長から祝辞があり、28年度事業計画にある尾張津島天王祭のユネスコ世界無形文化遺産登録に伴う観光振興、また、蓮見の会などの愛西市の自然を生かした観光事業への期待が述べられました。特に、蓮見の会に向けた舞妃蓮の寄贈に関する話題(表紙参照)は盛り上がりました。

記念講演会『尾張津島天王祭ユネスコ登録の価値について』と昼食休憩の後、午後1時半から、あいさいボランティアガイドの会の総会も開催されました。

荻野会長の挨拶、鈴木副市長、加藤観光協会会長の祝辞に続き、議事として平成27年度事業報告と収支決算報告、28年度事業計画と収支予算案、役員の改選案が提出され、満場一致で承認されました。

信長も見た 尾張津島天王祭

7月24日、今年も尾張の夏の風物詩である尾張津島天王祭が開催されます。

尾張津島天王祭車楽船行事は今秋、ユネスコ世界無形文化遺産へ登録される予定です。このため、あいさいボランティアガイドの会では、愛西市観光協会後援で、下記、講演会と歴史散策会を予定しております。参加無料、申し込み不要です。



<講演会と歴史散策会>

問い合わせ先：愛西市観光協会（0567-55-9993）

①尾張津島天王祭とは 7月 3日（日）午後1：00～2：00

机上講座（講師：若山 聡） 於：愛西市文化会館

②歩いて学ぶ市江車行事 7月17日（日）午後1：00～3：00

行程：名鉄佐屋駅（集合）～東保八幡社～佐屋代官所跡（解散）

（佐屋駅に駐車場はありません、公共交通機関をご利用下さい）

<今年の尾張津島天王祭日程>

7月 9日（土）	17時頃	斎竹立て	愛西市	東保町
7月17日（日）		花付け他	愛西市	東保町
7月22日（金）	16時	市江車お祓い	愛西市	東保町 東保八幡社
7月23日（土）	8時	市江車山上げ	津島市	天王川公園
	（宵祭）	10時	津島市	津島神社
		16時	愛西市	西保町 星大明社
		19時	津島市	天王川公園
7月24日（日）	6時	屋台起こし	津島市	天王川公園
	（朝祭）	9時	津島市	天王川公園
		10時頃	津島市	天王川公園
7月26日（月）	16時	神葎着岸祭	津島市	天王川公園
8月 1日（月）	16時	神葎祭	津島市	天王川公園

ところで、市江車で用いる布鉾矛先に榎（さわら）が用いられている理由を調べてみましたが、確たる根拠はわかりませんでした。しかし、檜（ひのき）が神社や住宅などの高級木材に対し、榎は檜に比べて水や湿気に強いため古くから船の材料として利用されていました。このため、川祭である尾張津島天王祭で神聖視した、あるいは、入手し易かったため、榎を用いたと考えられます。

また、榎も榎も江戸時代には尾張藩が木材資源として保護した木曾五木（檜（ひのき）・翌桧（あすなろ）・黒桧（くろひ）・榎（さわら）・高野槇（こうやまき）の五種類の常緑針葉樹）であり、貴重な木材ということも理由と考えられます。そして、榎と榎は区別が難しく、尾張藩の役人でも出来なかったようです。

榎と榎とを区別する方法として、葉裏の模様（気孔帯という）が榎はYの字、榎はHの字に見えるそうで、『H（エッチ）さわら（榎）ないで』と覚えると良いそうです。

～ 観光協会が関連する 今後の予定 ～

- 6月25日(土) 日本陸上競技選手権大会(於:パロマみずほレクリエーション広場)
6月30日(木) あいち観光ボランティアガイド会 総会
7月9日(土)・10日(日) 蓮見の会(於:森川花はす田)
7月21日(木) 海部地区INセントレア
7月23日(土)・24日(日) 尾張津島天王祭(於:津島神社)
7月31日(日) 愛知県主催 愛西市鵜戸川釣り大会(於:立田庁舎東側の鵜戸川)
8月7日(日) 他、漁業体験(於:三和町付近の木曾川河川敷)

V G 7月定例会の予定

集合時間: 7月17日(日) 9時～ 集合場所: 愛西市文化会館
内 容: 夏の催事について、市江車行事会場の視察(午後)

あいさいボランティアガイドの会 6月定例会 議事録

I. 定例会(6月19日(日) 9時～ 於: 愛西市文化会館、17人出席)

1) 6月末～8月に開催される催事について

- ① 蓮見の会 他について、協力体制を確定しました。
- ② 漁業体験 他について、再度協力体制を調整しました。
- ③ 研修バス旅行(6月29日)について、研修日程・参加者を確認しました。
- ④ 7月月例会と市江車行事の案内(7月17日・p3参照)

2) 関連行事の報告

- ① 愛西市観光協会&あいさいVGの会 総会(5月26日)、
VG西尾張地区会(5月28日)、海部地区観光ネットワーク総会について
- ② 鈴木家公開(5月28日)、海部歴史研究会の歴史散策会(6月4日)について

3) その他・意見交換

- 多様な観光資源について、○あいさいさんソングの活用について、○舞妃蓮について、

<漁業体験 参加家族 募集中>

実施日時: 8月7日(日) 午後1～4時頃
8月21日(日) 午後1～4時頃
8月28日(日) 午前9～12時頃

集合場所: 葛木港

募集人員: 各日共、家族12組(合計36組)

6月18日より応募開始

参加費: 3,000円(大人2+子供2の親子の場合)

人数により追加料金が必要となります。

捕れた魚や蛸は持ち帰りとなりますが、

漁獲量が少ない場合は抽選となります。天候や潮の状況により中止する場合があります。

申込・問合せ先: 愛西市観光協会(0567-55-9993)



あいさいさん